

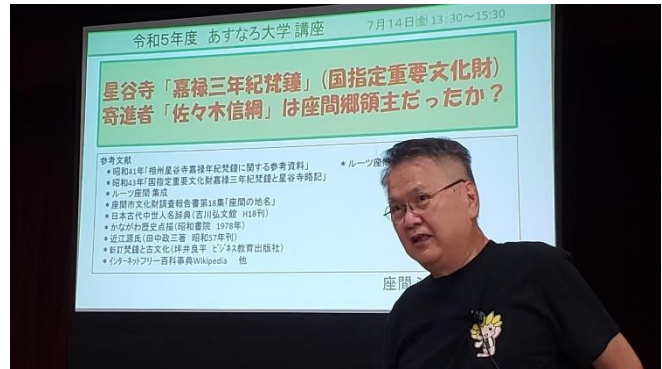
学 習 日 誌

7月14日(金)	講 師	太田司郎氏(座間ふるさとガイドの会 会長)	
出席者数	74名	記 録 者	4年3班 岡林光志
講 座 名	受講生提案講座1「星谷寺の梵鐘と佐々木信綱」		
プログラム担当者	プログラム委員会 提案者:成嶋ちえ子		
時 間・場 所	13:30 ~ 15:30、第1集会室にて		

【学習内容】

座間市内唯一の国指定重要文化財である星谷寺の梵鐘とその寄進者である佐々木信綱について、とても深い調査と推定に基いた興味深いお話を伺った。

(主要文献)「相州 星谷寺嘉禄年紀梵鐘に関する参考資料」(昭和41年、座間町文化財保護委員会編集);非常にしっかりした調査・編集に敬意を表するとのことだった。



<講座の概要>

(1) 梵鐘について

- ・製造(寄進):1227年(嘉禄3年)、寄進者:佐々木信綱
- ・国指定重要文化財:1967年(昭和42年)6月15日
- ・特徴...撞き座が一か所(全国で3例)、古い(全国50番目、関東以北で2番目)など
- ・制作費用は?...銭200貫(現在価値で約2,000万円?)

(2) 佐々木信綱という人は?

宇多天皇を祖とする宇田源氏の流れの近江源氏一族。

祖父9代佐々木秀義は平治の乱で頼朝について敗戦し奥州に逃げたが、父10代定綱の時代に頼朝蜂起(伊豆蛭が小島)に加担、源氏が再興したことで近江領を回復し更に領地拡大。兄11代広綱の時代に承久の乱発生、一族が幕府方と朝廷方に分かれて戦う。朝廷方について敗れた広綱に代わり、弟(四男)で北条泰時の参謀だった信綱が12代惣領となる。その後鎌倉幕府の評定衆となり1242年(仁治3年)64歳で没。

(3) なぜ星谷寺に梵鐘を寄進したか?(一部推定)

- ・平治の乱以来一族が辿った戦い、特に承久の乱で一族が分裂した戦いと多くの死を思い、その霊を弔う目的があったのではないか。
- ・座間の字に「近江久保」という名があるように、座間は信綱の領地であったと考えられ、かつ星谷寺は阪東33観音第8番札所で武士が帰依する観音霊場であった。

【感想】

- ・星谷寺の鐘は20~30年前に除夜の鐘を撞いたことがある身近な存在だったが、その裏にこのような壮大な歴史ドラマがあることを知り驚きだった。
- ・母親如何(妾だったり義時の娘だったり)でどのような扱いになるのかという歴史の裏話もあり興味深く拝聴した
- ・多くの文献を図書館等で調査・研究され、読み込まれたことは調べ学習のお手本だと感じた